

GU'DAY

群馬大学情報誌
[グッデイ]

vol. 1

2005 ● Spring



「GU'DAY」は、「GOOD DAY」の表音(日常のあいさつ=こんにちは・さようなら)で、「地域とのふれあい・コミュニケーション」を示すとともに、「GU (Gunma University) のDAY (時代)」も意味します。

2 GU'DAY TALK

[学長に聞く]

群大だからこそ新しい価値を創造できる。

4 CAMPUS WATCHING

桐生キャンパスの「近代化遺産」

[群馬大学工学部同意記念会館]

6 TOPICS

- 中国ビジネス研究会
- ナノテクノロジー
- サテライト高崎
- COE/GP/現代GP

8 GUNDAI 最先端

次世代の医療、「重粒子線治療」

10 ひらく・むすぶ・地域と大学

「地域=大学」の新しい関係が見えてくる

12 すぽっと散策

荒牧キャンパス周辺/敷島公園
～川原町界隈

13 大学遺産

ルネサンスの至宝
インキュナブラ『神曲』

14 あのとときGUNDAI

昭和24年、群馬大学開学!

16 PUZZLE ME! MESSAGE

GU'DAY TALK

グッデイ・トーク／学長に聞く

群大だからこそ新しい価値を創造できる。



「自主自律」と 「コミュニケーション」

瀬谷 一年前の法人化（国立大学法人化）に際して学長は「自主自律」という指標を示されました。

岡田 一方で「コミュニケーション」の大切さについて説かれていますね。このふたつのことをどうとらえたいのでしょうか。

群馬大学はほどよい規模ということもあって、コミュニケーションの面では一歩先んじている気はしますが、さらに教職、

員にも学生にも「血の通ったコミュニケーション」というものを求めていると思います。

先生も学生も もっと対話を

瀬谷 大学が法人化すると学生サービスが良くなる（笑）ということも耳にしましたが……。学長 かつて大学は「研究」が主で「教育」は従という考え方がありました。しかし、大学の一般化・大衆化にともなって、大学も一個の教育機関として、従来に増して教育に力を入れ、より質の高い学生を社会に送り出すということが求められるようになりました。したがって、学生サービスの向



群馬大学長 鈴木 守

聞き手 社会情報学部4年 瀬谷 智
教育学部3年 岡田佳歩里
●ともに「多文化共生研究プロジェクト」（文部科学省地域貢献特別支援事業）のスタッフとして外国人が集住する地域でボランティア活動をしている。

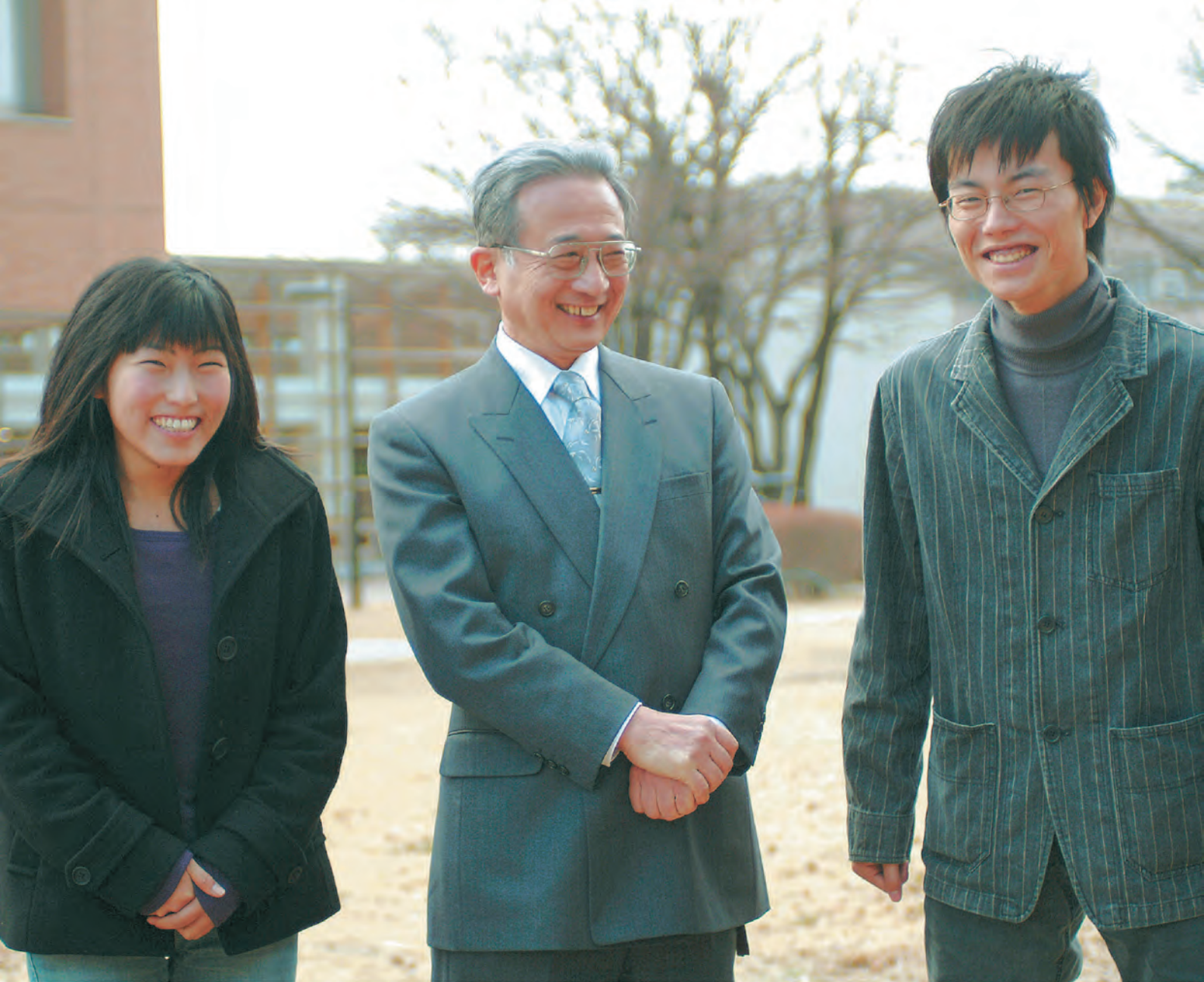
上というのは教育サービスの向上ということになりますね。そのためにはワンウェイではだめであって、先生たちには学生との対話をしっかりやってもいいし、学生のほうも遠慮なく注文をつけてもらいたい。両方のアクションがないと、

うまくいかない。それが「コミュニケーション」ということでもあるわけですね。

世界的視野に立ち 地域で行動する

岡田 そのコミュニケーション

というのは、学内だけでなく学外に対しても働きかけていかなければならないわけですね。学長 もちろん、そのとおりです。瀬谷 そのことについて学長はかねて「Think Globally, Act



Locally (世界的な視野に立つて地域で行動する)」ということとを述べておられます。このことばの真意は？

学長 たえば、あなたがたがいまやっている「多文化共生プロジェクト」という活動について言えば、それは地域貢献ということもできるし、一方で世界的な視野での重要な研究ということもできます。

多文化共生というのは、世界の各地で起きている問題です。

したがって、まさにあなたがたが、自ら実践している活動をモデルにして、世界に提言するということもできるわけです。

これはいま構想中ですが、私はあなたがたのやっているような活動を見極めたうえで、「多文化共生」をテーマにした国際シンポジウムを、この群馬大学で開こうと提案しているんです。

瀬谷・岡田
すごい！

学長 そのときは、おふたりも参加して、しっかり英語でアピールしてください。

瀬谷 大変な課題を頂戴しました(笑)。

学問をコアに 地域と連携を

岡田 「Think Globally, Act Locally」…世界を見すえて、これからも群大は、より地域に開かれた大学になっていくということでしょうか。

学長 もちろん、そのとおりですが、大学というのは学問に専念する部分もなければなりません。むしろ、その部分がコアになるべきですね。

そのコアの部分と地域と連携する部分、そのふたつがきれいに調整されて、両輪のようになっていけば機能的に個別化された大学が創造され、結果的に質の高い学生をつくりあげていく。そのことによって、これからの大学は評価されるべきです。

伝統的な権威付けでもない、偏差値でもない。大学の機能を明白に示して教育の質を高めること。それが群馬大学なら、これまでの経緯や条件などをみても大いに期待できるし、必ずできるということですね。



桐生キャンパスの「近代化遺産」

[群馬大学工学部同窓記念会館]

CAMPUS

WATCHING



「近代化遺産拠点都市」
桐生の代表的建造物

「近代化遺産」とは、江戸末期から昭和20年代終戦期までの間に近代的な手法で造られた建造物などを指し、日本の近代化をになったものを文化財として評価したものです（文化庁による用語）。

桐生市は戦災に遭わなかったこともあり、数多くの近代化遺産が残存し（国指定重要文化財1件・国登録有形文化財14件・市指定重要文化財2件など）、それらは今も機能を有しながら市民生活のなかに息づいており、市は「近代化遺産拠点都市」を宣言しているほどです。

その近代化遺産を代表する建造物のひとつが、桐生キャンパスにある「工学部同窓記念会館」です。



桐生高等染織学校校舎
として大正5年完成

群馬大学工学部は、大正4年（1915）に創設された桐生高等染織学校を前身としています。その2年前、すなわち大正2年から校舎建築が着工し、大



旧本館の正面玄関。入口のチューダーアーチや十字架の装飾など、当時のモダン建築の香り。手前には移設にあたって「車寄せ」も復元されています



講堂入口から正面演壇を見たところ。
レトロな雰囲気あふれる空間はまさにスクリーンの舞台にぴったり!

正5年に竣工しました。

その後、校舎は工学部に改制(昭和24年・1949)以降も使用されていましたが、昭和47年、「工学部建物長期計画」に基づき、本館の玄関を中心とした一部とそれに付属する講堂が現在地へ移設(曳家^{ひきや})されました。

もともとは左右に長い「翼」があつた

実は旧本館のもともとの姿は、左右に翼をのばしたように長大なものでしたが、移設にあたって割愛せざるを得なかったということです。

さらに平成2年、「工学部創立75周年記念事業」の一環として大規模な改修が行われ、外壁の再塗装・講堂の屋根葺き替え・内壁や床の一部張り替えなどが施されました。

平成8年には文化庁の「文化財登録制度」導入により、近代化遺産についても「活用しながら保存していく」ことが示され、同年、この記念会館は国登録有形文化財に指定されています。

チューダー様式の意匠 教会堂のような風格

正面に高く破風を張り出した重厚なたたずまい。それは、イギリス建築のチューダー様式の意匠とあいまって、学校の講堂というよりも、西洋の教会堂のような印象を与えます。その偉容が大正初期の人たちの耳目を引いたことは想像にかたくありません。

玄関を入り、吹き抜けのホールを過ぎれば、

広々とした講堂が現れます。

3階分ほどの高さの空間に、三方を取り囲む桟敷。柱などの躯体や全体の装飾はもちろん、長椅子やシャンデリアなども当時のまま、ということ、そこにただよう空気も古色を帯びているようです。

スクリーンにも登場 いまなお「現役」

そのためかどうか、この講堂は明治・大正期を描いた映画のロケに何度か使用されています(『遠き落日』『忠犬ハチ公』など)。

もとより、この講堂は「現役」として、学会や共同研究会、後援会総会などに使われ、まさに「活用しながら保存する」近代化遺産の意義を体現しています。

風雪に耐えて往時の姿をとどめるこの建物がいつまでも残ってほしいと願うのは、ひとり関係者のみではないように思います。



講堂の桟敷。手摺子(てすりこ)の意匠もユニーク



玄関と講堂をむすぶ吹き抜けのホール



群大工学部のシンボルとしてこれからも保存を

中国ビジネス研究会

この研究会の主な目的は、県内および周辺の中小企業の中国とのビジネスをサポートすること。具体的な活動として、2、3か月に一度という頻度で「例会」を開いています。これ



中国進出の企業をサポート

国際化が進み、群馬県の企業も海外とのビジネスを展開する機会が多くなりました。特に「これからの日本の企業は中国と向き合っていないといけない」と指摘されています。このようにことから、大学の地域共同研究センターの試みとして「中国ビジネス研究会」が発足（平成15年10月）し、地域に密着した活動を行っています。

は、桐生・高崎・伊勢崎・太田などと会場を変えて開催されるもので、主に中小企業者の中国進出における成功・失敗事例などの講演・パネルディスカッション・相談会という流れで構成されます。さらに大学として、中国からの留学生の就職フォローという草の根活動、大学間・学部間で協定を結んでいる中国の大学（10数校）と連携した現地の企業・産業支援なども進めています。

先駆的な試み「駅前大学院」

サテライト高崎



本学の大学院社会情報学研究科が国立大学として全国に先駆けて起こしたプロジェクト、それが産学連携型サテライト大学院「サテライト高崎」です（平成14年4月開設）。これは、野村證券とのコラボレーションによって主に社会人を対象とした大学院科目を共同開発し、教室も交通アクセスの至便な野村證券高崎支店のスペースを借用して開講するというユニークな試みです。また、講師も本研究科の教員とともに、野村證券から毎回派遣されるゲストスピーカーやゲストアナリストによって進められるというのも話題になっ

ています。このサテライトの大きな特色は、従来は例外的な存在と考えられがちだった「科目等履修生」のシステムにスポットを当て、特にそれをターゲットとして当該科目のみを受講する教室を開設したということで、この点が国立大学の新しいビジネスモデルとして注目を集める所以でもあります。また、平成16年度から新たに「MOT（マネジメント・オブ・テクノロジー）プログラム」を導入し、技術系企業の多い地域の実情に即して「技術と経営の両方に精通した人材の養成」を図っています。

ナノのポテンシャルを追求

ミクロン(千分の1ミリ)よりもさらに微小なナノメートル(10億分の1ミリ)百万分の1(ミ)の世界。それは原子の大きさ(原子オーダー)にゆきあたってしまうほど、超微細な領域です。

このナノメートルのレベルの精度を扱う

技術、ナノテクノロジーの分野で本学(大学院工学研究科独立専攻)は、実用化をふまえた研究を進めています。

たとえば、カーボンナノフ

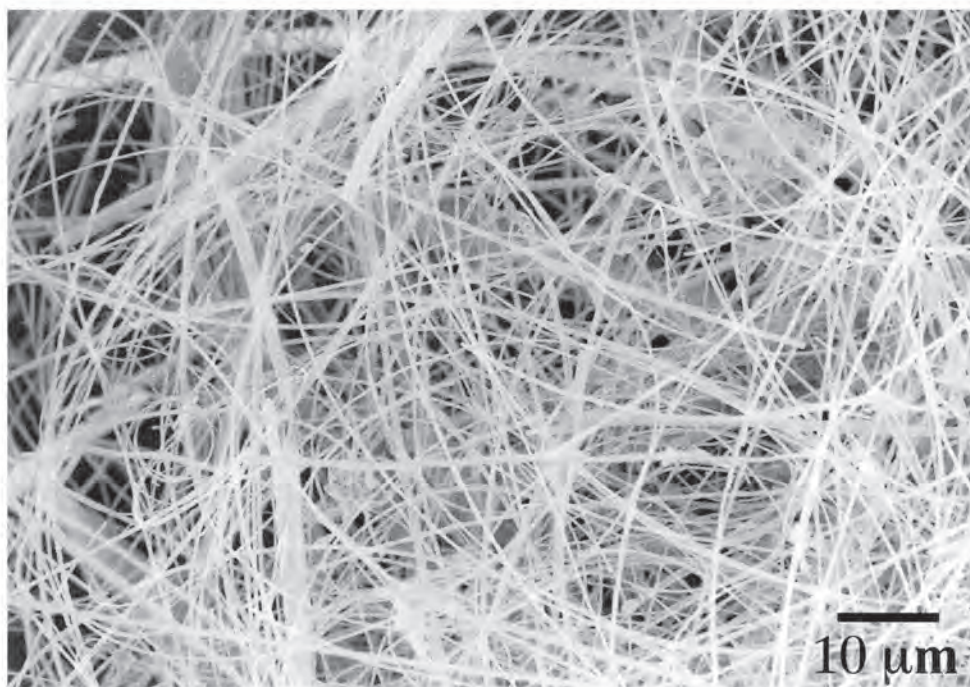
アイバーに代表されるナノ材料の開発。これは「ポリマーブレンド」という特殊な技術の導入によって、より高品質な材料を取り出すことに成功しています。

ナノスケールのモノをつくるためのナノスケールの金型の製作技術。これについては、県内の金型工業会などを含めた産学連携で共同研究・新製品開発が進行しています。

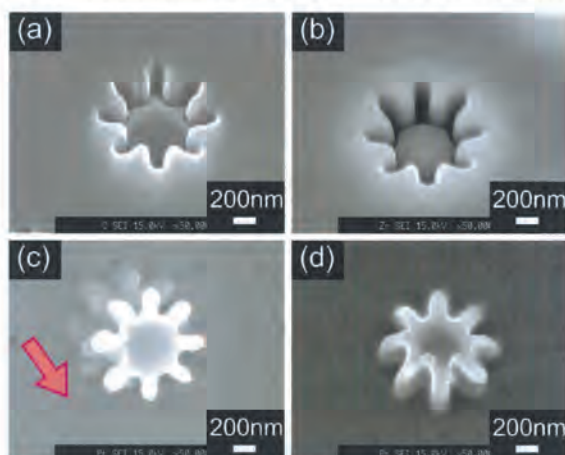
そして、次世代型「プロジェクトとしての超高密度記録ディスクの研究開発。これは、ナノレベルでディスクの容量を高め、たとえばDVD1枚に50本くらいの映画を入れてしまうというもの！」

これからの科学技術の基幹分野、ナノテクノロジーへの期待が高まります。

ナノテクノロジー



ポリマーブレンド法で調製したカーボンナノファイバー。右のスケール(100分の1ミリ)と比べてみると…。



「歯車」の金型(a・b)と成形結果(c・d)。
…といっても、フツの歯車ではありません。
参考スケールは200ナノメートル=5000分の1ミリ!
直径わずか1ミクロン(1000分の1ミリ)の歯車なのです。
a=ガラス状カーボン b=ジルコニウム基金属ガラス
c・d=白金基金属ガラス製歯車

文科省プログラムに 続々と採択

わが国の大学における世界的研究教育拠点の形成を支援する「21世紀COEプログラム」に平成14年度の「生体情報の受容伝達と機能発現」に続き、平成16年度に、本学の申請した「加速器テクノロジーによる医学・生物学研究」(本誌P8・9参照)が採択されました。また、平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム(GP)」には、医学部医学科による「良医養成のための体験的・実践的専門前教育」が採択されました。これは、倫理観とスキルの高い医師の養成のため、入学当初から少人数グループ制で体験実習などを行う試みが評価されたものです。

さらに、平成16年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」には、本学の「知的財産啓蒙教育及び弁理士チャレンジ教育」が採択されました。これは「入門的財産講座」「医学特許講座」「弁理士チャレンジ講座」など、新入学生から大学院生まで、学部を超えて大学全体で取り組む実務性の高いユニークなカリキュラムが評価の対象となりました。

COE/GP/現代GP

次世代の医療、「重粒子線治療」

GUNDAI

最先端

医学部が先鋭的に研究を進めている「重粒子線治療」、そして建設が期待される、学内の施設としての画期的なその装置。いま、がん治療の最先端とは？ そこでなにが起きているのでしょうか。小澤副学長と中野教授に聞きました。

●インタビュー

がんを「切らずに治す」

——重粒子線治療とは、どのようなものですか。

中野 ヘリウム以上の大きさを持つ元素のイオン、特に炭素イオンを高速度に加速して、がん病巣などに照射するものです。

——そのメリットとは？

中野 通常の放射線よりもがん細胞を殺す作用が2、3倍強力で、しかもがん病巣に集中して照射できるため、正常細胞を傷つけにくいという特性があります。



群馬大学大学院医学系研究科教授

中野 隆史



群馬大学理事(研究担当)・副学長

小澤 瀬司

ます。

また、難治性のがんにも効果があり、治療は外来通院が可能で1〜4回で終了、さらに「切らずに治す」ために患者さんの苦痛も軽減され、治療後のQOL(生活の質)という面でも期待できるなど、多くのメリットがあります。

なぜ群大に重粒子線か

小澤 この重粒子線治療には炭素イオンを光の速さの70%程度まで加速するための加速器が必要です。

群馬大学では平成13年から全国の大学に先駆けて、重粒子線治療装置の学内設置計画を立案し、平成18年度着

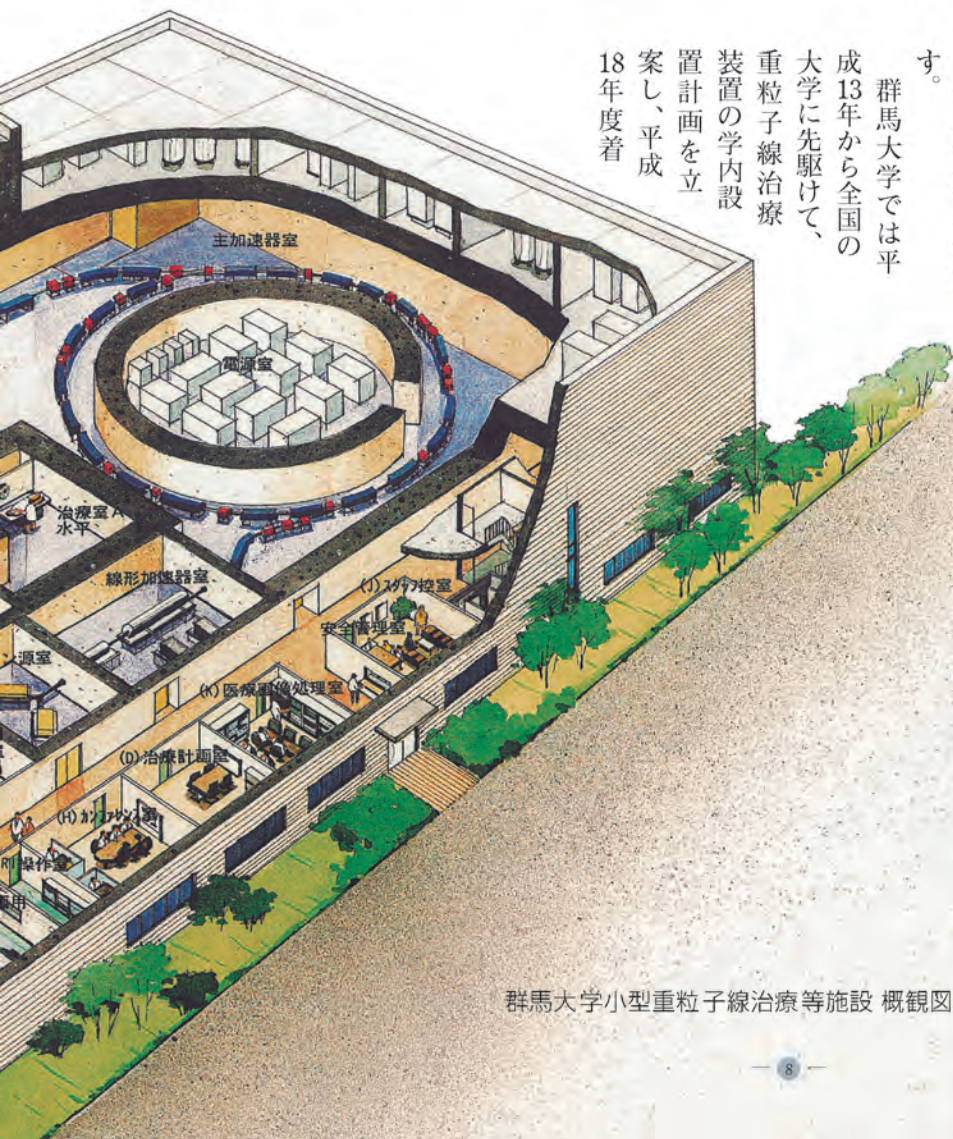
工、平成20年度施設完成を目標に活動を展開しています。

——なぜ、その装置を群大に？

小澤 群大医学部はかねて放射線医学の最先端の研究を行ってきたおり、附属病院では高度な放射線治療の実績を重ねています。優秀な人材も豊富です。

この放射線医療の活力を活かして、先進的な重粒子線治療を推進すること。それは群大だからこそできることだと考えています。

——その加速器というのは、どのくら

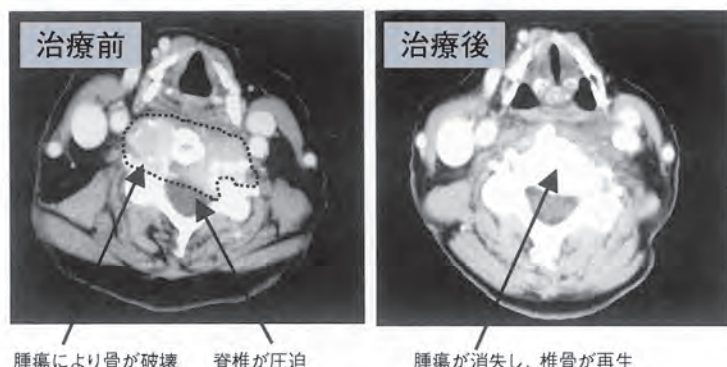


群馬大学小型重粒子線治療等施設 概観図

最先端

頸椎の骨肉腫の重粒子線治療例

「提供：放射線医学総合研究所」



腫瘍により骨が破壊

脊椎が圧迫

腫瘍が消失し、椎骨が再生

高規格のマイクロビーム

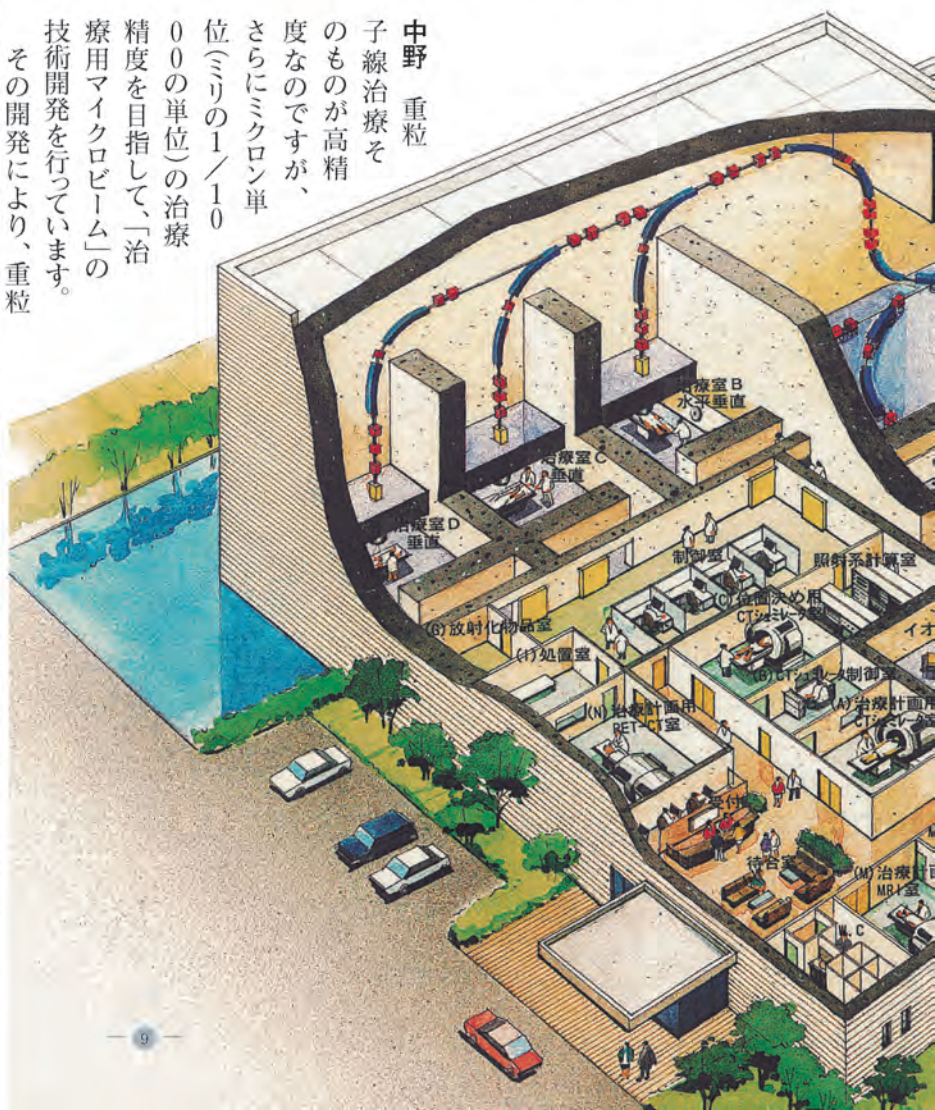
—— 独創的研究とは？

いの大きさのなののですか。
小澤 世界に先駆けて重粒子線治療を行っている放射線医学総合研究所(放医研)の加速器は10年前に設置されたもので、直径40ミリの大きさです。その後、放医研を中心に医薬用加速器に関する技術開発が進み、直径20ミリの加速器の製作が可能になりました。群大では、この最新の小型加速器を装備した重粒子線治療施設を建設したいと考えています。そして、もうひとつ、特に独創的な研究も進めています。

中野 重粒子線治療そのものが高精度なのですが、さらにマイクロン単位(ミリの1/1000の単位)の治療精度を目指して、「治療用マイクロビーム」の技術開発を行っています。その開発により、重粒子線の治療対象がさまざまな疾患に拡大できるようになります。

—— どんな例がありますか。
中野 たとえば「加齢黄斑変性症」という疾患では、マイクロビームを使うことで、厚さ250ミリの網膜を傷つけることなく、その下の患部(新生血管)のみを治療できる可能性があります。ほかにも、きわめて微小ながん、脊髄や脳血管の疾患などへの適応が考えられます。

—— 期待が高まりますね。
小澤 群大では、地元の日本原子力研



究所高崎研究所(原研高崎)と連携して「加速器テクノロジーによる医学・生物学研究」を推進しています。原研高崎はマイクロビームの研究開発では世界トップの実績を持っています。この共同研究は「21世紀COEプログラム」(本誌P7参照)に採択され、プログラム委員会から特に「治療用マイクロビームをぜひ実用化につなげてほしい」とのコメントをいただいています。

これからも力を合わせて、この群大に最先端のがん治療が提供できる拠点をつくりたいと考えています。

「地域＝大学」の新しい関係が見えてくる。

大学の「第3の機能」を 実践する「公開講座」

研究活動、教育活動と並んで、大学の「第3の機能」といわれるもの、それが「地域連携活動」です。

かねて群馬大学では、さまざまなかたちで地域連携活動を実践してきました。その代表的なもののひとつに公開講座があります。

当初、公開講座は大学内で行われてきましたが、昭和63年、文部省(当時)に生涯学習局が設置されたことを契機として、学外の会場でも行われるようになりました。現在、本学の公開講座は、市民を対象としたAコース、専門技術者等を対象としたBコースの2つのタイプがあり、それぞれ、さまざまなテーマで地域の人たちと共に学ぶ試みが続けられています。

公開講座(平成17年度)

Aコース「市民一般」対象

- 3地域をテレビ電話で結びながら考える「くらしと健康」
- 子どもCG教室 ―パソコンでのお絵かきとアニメ―
- インターネットで医療情報を調べる
- 市民のための健康生成実践講座 ―自分を磨く―
- 推古朝と聖徳太子
- 体感「源氏物語」
- 医学生と学ぶ「医療のしくみと情報」
- パソコンによる楽譜制作入門講座
- 世界のテレビコマーシャルで文化を学ぶ
- 情報社会を読み解く
- 知能テスト・血液型性格学を考える
―テレビが流す心理学的話題の落とし穴―
- 「世界脳週間2005」脳を知ろう、
脳の世界に踏み込もう!

Bコース「専門技術者等」対象

- 体操競技への道 ―中学生体操競技教室―
- 医療者のための健康生成実践講座
―自分を磨く(Part II)―
- アスレティック・リハビリテーション指導者養成講習
- 免許法認定公開講座「障害児の教育」
- 免許法認定公開講座「障害児の教育制度」
- 物質構造・機能解析における放射光利用最前線
―新材料開発へ向けて―
- 免許法認定公開講座「障害児の生理・病理」
- 小学校教員のための英語ワークショップ
―英語活動指導力の向上をめざして―
- 学校教育臨床研修講座
- 実践能力を高めるための臨床実習指導の実践
- 先端機器分析セミナー ―基礎と実習―(5コース)
- 神経難病療養者の在宅看護とリハビリテーションの実践
- 小学校教員のための英語ワークショップ2
―英語コミュニケーション能力の向上を目指して―
- 免許法認定公開講座「障害児の指導法」
- 細胞内膜輸送のダイナミクス
- 免許法認定公開講座「障害児の教育課程」
- 免許法認定講座「障害児の心理」
- 高校生を対象とした授業公開
- 心理臨床研究会 ―事例検討―





より地域に開かれた大学へ 「地域連携推進室」の活動

地域連携活動をさらに組織的・系統的に行い、地域貢献・地域振興を図るため、平成13年4月、本学は「地域連携推進室」(GURPO)を設置しました。

この地域連携推進室は、「地域に開かれた大学」「地域に貢献する大学」「地域と共生する大学」を目指してさまざまなニーズに 대응していくもので、おおよそ次のような活動を展開しています。

- ・シンポジウム、講演会、セミナーなどへの講師派遣
- ・共同研究や共同プロジェクトの実施
- ・技術アドバイザーや経営アドバイザーの派遣
- ・委員、専門家、研究者の派遣
- ・情報システムに関する相談
- ・研修プログラムや人事考課システムの構築
- ・出前授業、体験学習の依頼への対応
- ・学生ボランティアの派遣…など

「地域連携プロジェクト」で 具体的な成果を示す

地域連携推進室の活動のひとつに「地域連携プロジェクト」の企画・立案・推進があります。



このプロジェクトにはさまざまな種類がありますが、たとえば「多文化共生研究プロジェクト」では、外国人が集住する地域で一緒に仲良く生活する社会を構築するための具体策などが研究されるとともに、子どもたちへの教育支援(放課後サポート教室、家庭訪問など)や医療支援(外国籍児童生徒の健康診断、健康相談会など)といった実践活動が行われ、成果をあげています。

これからも地域連携推進室は、「大学と地域とのパートナーシップ」を大切にしながら、さまざまなかたちで地域との連携活動を進めていきます。



すぽっと 散策

明るく開放的な街へ 光と風の公園通り

あらまき しきしま かわはら かいわい
[荒牧キャンパス周辺／敷島公園～川原町界隈]

これからのシーズン、晴れた日にこのキャンパス周辺を自転車でするとい
うプランも素敵ですよ。

また、敷島公園のサッカー場（群馬
県立敷島公園サッカーグラブー場）は、
今年J2に昇格した「ザスパ草津」の
ホームグラウンドとして利用され、試
合の日には多くのサポーターが集ま
ります。なお、将来的には敷島公園の
県営陸上競技場が整備されてホーム
グラウンドになる予定です。

敷島公園の周辺は、休日に
人びとが集い、憩う場所として親し
まれてきました。最近ではさらに開
放的な空気が感じられるようになって
います。

敷島公園から荒牧キャンパスへ向か
って川原町を走る通りには、ブティッ
クやレストラン、雑貨店などが並び、
若者の集まる新しいスポットになりま
した。

近年は、利根川に架かる上毛
大橋の開通（平成11年3月）やそ
れと連動するバイパスの整備など
によって、周辺の商業集積が進み、
賑わいのある界隈性も加わるようにな
っています。

教育学部・社会情報学部のある
荒牧キャンパス周辺は、敷島
公園に近く、荒牧町・緑が丘町
などを中心とした閑静な住宅街
として知られています。



敷島公園は荒牧キャンパスから1キロ
ほど。上から早春のバラ園、萩原朔太
郎記念館、蚕糸記念館、ボート池



荒牧キャンパスに隣接する川原町界隈にはおしゃれな店が次々に生まれています

GUNDAI

大学遺産

Heritage

ルネサンスの至宝インキユナブラ『神曲』

群馬大学附属図書館が所蔵する唯一の「インキユナブラ」、それがダンテの『神曲』です。

インキユナブラとは、グーテンベルクの印刷術発明（1450年頃）から15世紀末までの50年ほどの間にヨーロッパで活字印刷された本のことで、「揺籃期本」とも訳され、珍重されています。

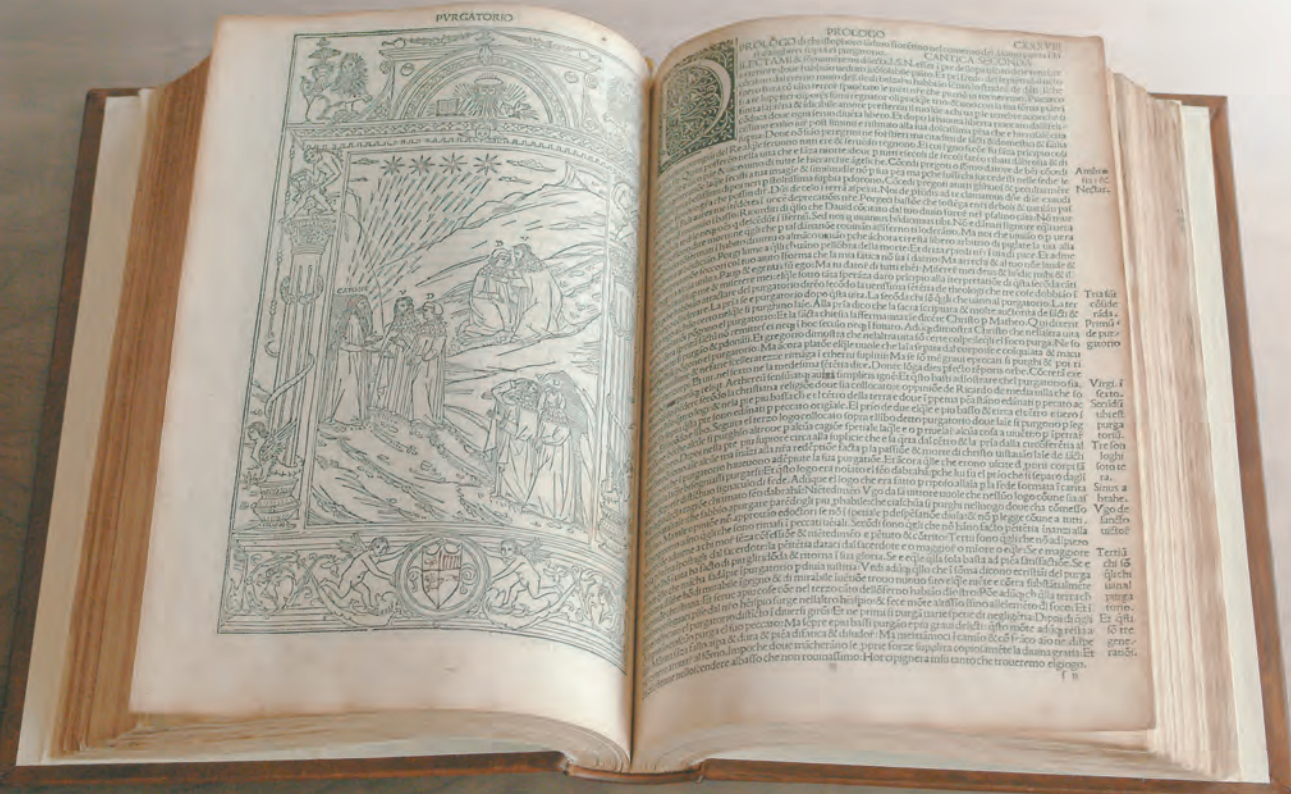
このインキユナブラ『神曲』

は、1491年にヴェネツィアで刊行され、もともと4折判（29×20^{センチ}）総枚数302葉だったのを、1970年頃に総革装丁して1冊の本にしたものです。

ご存じのように『神曲』は、ダンテが主人公となつて地獄・煉獄・天国の3界を巡る一大叙事詩であり、イタリア文学の記念碑というだけでなく、世界文学史上の巨峰として評価されています。原題は『Divina Commedia』で、直訳すれば「神聖な喜劇」。「神曲」という邦訳名は森岡外が名づけたと言われています。

図書館では平成14年度に本書を購入。これに際して、ダンテ20代目の末裔セレーゴ・アリギエーリ伯爵から祝いのメッセージと伯爵家の紋章入りの書物（アリギエーリ（ダンテの姓）一族に関する内容）も送られました。

なお、ダンテの故郷フィレンツェの大学（フィレンツェ大学）と本学の間には一昨年、国際学術交流協定が結ばれています。



群馬大学開学!

戦後の混乱と曙光のなか、群馬大学は新制の国立大学として新しいスタートを切ることになりました。ときは昭和24年(1949)。全国的に国立大学が複数の高等教育機関をもとに再編され、発足しましたが、群馬大学はその代表的なケースでした。前橋医科大学、桐生工業専門学校、群馬師範学校、群馬青年師範学校の旧制各校を母体として、その系譜を引きつつ、新たに医学部・工学部・学芸学部(のちの教育学部および社会情報学部)の3学部で開学することになったのです。

終戦までもない闇と光のなかで



昭和24年6月の開学記念の様子。「期成同盟会」は戦後の施設拡充を援助

9月1日 授業開始
(以上学芸学部の
場合)

11月1日 開学式

(学芸学部講堂に
て全学で)

なお、群馬大学の
開学記念日が6月1
日と決まったのは翌
昭和25年9月のこと
です。

また、当時の学芸
学部は、群馬師範学
校の校舎があつた前
橋市清王寺町(現・日
吉町)にありました。

ちなみに、この昭

その年の経緯を順に示す
と、次のようになります。
6月1日 群馬大学発足(学
則成立)

6月8、10日 入学試験

7月16日 入学式

和24年という年には次のよう
な出来事があり、戦後の暗部
と希望とが交錯していたこと
がわかります。

3月 ドッジライン(インフレ
克服へ)

6月 ソ連からの引き揚げ船
舞鶴入港
7月 下山事件、三鷹事件(8
月松川事件)

8月 古橋広之進、国際大会
で水泳世界新記録
11月 湯川秀樹ノーベル物理
学賞受賞

戦争の傷痕と新たな時代の予感

戦後の混乱という状況を示
すように、昭和24年に入学し
た学生の回顧があります。



開学記念講演会。演題は「原子力の問題」と「日本文化の世界性」

「(当時の前橋市内は空襲の
跡が残り)ところどころにポツ
ンポツンと土蔵が残っていて、
人びとの家は焼けただ
れたトタンで囲ってあ
るような、みすぼらし
い家がほとんどで…」
一方、別の同期の学生
は次のように思い起こ
しています。

「街にはモンペ姿が
減り、ショートスカ
ートにネッカチーフをか
ぶった女性のスタイル
が先端モードとしてあ
ふれたところだった」

このふたつの記述は
おそらく矛盾するも
のではなく、要するに

昭和24年、



昭和24年に竣工した医学部外来本館。当時、病院の裏は一面ほとんど畑でした

昭和24年という年は、戦争の傷痕と新しい風潮とが混在していた時期だったのではないかと思います。

急造のバラックで学問に励む

「同窓の仲間も、師範学校や旧制中学・新制高校から進学した人、また、軍関係の学校や、軍隊生活をしてきた人など、さまざまであった」

そんな第一期生が集った学舎は「靴音の響く、急ごしらえの校舎」でした。

(※以下、文中のコメントは「惜日」学生時代回顧集「群馬大学学芸学部第一期卒・群馬大学群馬師範最終卒編 昭和62年 回顧集編集委員会発行」より抜粋させていただきました。)



医学部の第1回生は昭和26年、前橋医専の閉校後に入学

これは、群馬師範学校男子部の校舎が昭和20年に焼失（戦災ではなく放火）したことにより、焼け残った武道場や附属国民学校の建物などを改造したり、バラックを建てたりして間に合わせたからでした。「窓にはガラスがなく、いすや机も満足にない」環境のなかで、学生たちは新しい時代の息吹を感じながら学問に（とくに学資を得るために家庭教師や競輪場などでのアルバイトにも）励んだのです。

貧しさのなかに活気と交流

物資が乏しく、経済の貧困な時代でしたが、そのなかに活気がありました。

「校友会も盛況で、活動資金集めのため、講堂で社交ダンスのパーティを盛んに開いていた。教授も、そんな中に入って学生といっしょに楽しいひとときを過ごした」

「先生方のご家庭にまで押しかけて……そういう先生方と学生との人間関係はどの研究室も共通していたようだ」

このように「新制群馬大学の建学の気風にあふれた自由で明るい活気」が学内にあったようです。

演劇青年が集まり、「テアト



昭和25年、医学部正門前で。当時は「前橋医科大学」と「群馬大学医学部」の2枚の看板が並べて掲げられていました。なお、当時の正門前の道路は未舗装でした



学芸学部のグラウンド風景(昭和20年代)

ロ・ヒューメ(劇団けむり座)なる劇団を結成し、ゴリキ―やチェホフなどの作品を熱演したのもこのころのこと。また、24年11月には一般教養の前橋教室に学生自治会が発足するなど、早くも学園民主化の芽がめばえています。

漢字ナンクロに挑戦!

同じ数字のマス目に同じ漢字を入れていくナンクロ(ナンバークロスワードパズル)です。マス目に入るのはすべて漢字です。通常のクロスワードパズルのような「キー」はありません。数字を照合しながら漢字をあてはめ、マス目を埋めていきます。わかったものから対応表に書き入れていくとやりやすいでしょう。第1号を記念して「自主自律」「群馬大学」の文字を入れてみました(ほかのマス目にこの中の漢字が使われることもあります)。



ヒント

大きな体をした人間が住んでいるという想像上の国。巨人国。

敗戦直後の昭和20年末、蔵原惟人・徳永直・宮本百合子らを発起人とする新日本文学会が提唱した文学。機関誌「新日本文学」を発刊。

ヒント



1	2	3		4	5	6	7	
3		8	9	10		7		11
12	8	13		1	14		12	9
	9		15	16		17	18	
自主自律				群馬大学				
	14	8		19	11		16	20
17	2		8	21	21	22		6
12	16	20		18	22		10	7
5		4	8	15		19	13	

ヒント

明治末期以降、近代的な演劇を確立しようとして展開された運動。

坪内逍遙、島村抱月らによる「文芸協会」、小山内薫、市川左団次らの「自由劇場」がこの運動の先駆となった。



1884年(明治17年)、群馬の自由党员らが高崎駅開通式に参列する政府高官らを襲い、政府打倒を企てた事件(襲撃は未遂)。

ヒント

漢字対応表

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22

(※ヒントは『スーパー大辞林』より引用・抜粋しました)

GU'DAY

GUNDAL情報誌「グッデイ」vol.1

第1号発刊 平成17年3月31日
編集・発行 国立大学法人
群馬大学広報戦略室
〒371-8510
群馬県前橋市荒牧町四丁目-2
TEL027-220-7010
FAX027-220-7012
E-mail:
s-public@jimu.gunma-u.ac.jp

コミュニケーションで創造していく情報誌へ。

今後、よりコンテンツの充実を図り、毎回、皆様に興味深くご覧いただける内容にしていきたいと考えています。
皆様もご感想・意見、また本誌で紹介を希望される群大関係の資料や写真などお持ちでしたら、お知らせください。
この「GU'DAY」は、皆様とのコミュニケーションによって創りあげていく情報誌でありたいと思います。そして親しい者同士が交わす「グッデイ! (こんにちわ)」のあいさつのように、いつも皆様の身近な存在でありたいと願っています。

記念すべき創刊号! ... といったところですが、あまり準備も整わず、満点の自信作というわけにはいかなかったようです。それでも、従来の情報誌とは異なる新しい息吹を少しでも感じていただければ幸いです。
今後、よりコンテンツの充実を図り、毎回、皆様に興味深くご覧いただける内容にしていきたいと考えています。

M
E
S
S
A
G
E

平成16年度の「国立大学法人化」により、本学は「国立大学法人群馬大学」として新たなエポックを迎えました。